

話題の本

◆おらほのふぐすま

鈴木涉写真・文

埼玉から浜通り、中通りに通い詰める著者の写真集。2013(平成25)年から今年までに撮影した、県民の飾らない姿を収めている。

冒頭の1枚は2014年、大漁旗をなびかせ新地町の釣師浜に入港する真新しい船を撮影した。

「共事者」として寄り添う



入港を待つ女性たち、船主一家の笑顔の写真が続き、苦境から立ち上がる県民の強さや希望を描き出している。多彩な祭礼の活気、楢葉町でポランティアとともに行われた

稲刈り、福島市の桃農家の営みなどを捉えた写真も収録している。

撮影を始めた当初は被災の風景に目が向いたが、次第に懸命に生きる人々に寄り添うようになっていったという。いわき市の地域活動家小松理度(りけん)さんは本書への寄稿文で「復興と共にする者、いわば『共事者』として写真を撮り続けてきた」と著者を評している。

◇本の泉社・2500

円